

# 「科学技術」政策よりも **研究・教育**政策を

隠岐さや香  
広島大学大学院 准教授  
科学技術史・科学技術論

# これまでの科学技術政策(科学技術基本計画)への疑問(1)

- ▶ 社会科学적인裏付けの不明  
確さ
- ▶ 教育制度や産業に対する構  
造的把握の不在

例:ポスドク一万人計画

数字の根拠は何だったのか?

博士課程修了者の就業調査の遅れ 継続的な調査体制の  
不在

# これまでの科学技術政策(科学技術基本計画)への疑問(2)

根底にある前提を問い直す

「人材育成と競争的環境の醸成」「科学の発展と絶えざるイノベーションの創出に向けた戦略的投資」  
(科学技術基本計画 平成18年より)

科学研究への投資+競争的環境→イノベーション  
と国際競争力？

そもそも「国際競争」とは？経済発展？論文数？  
研究って製造業なの？

# 主張

これまでの「科学技術政策」におけるキーワード... 自然科学、イノベーション、競争



人と文化を重視した「研究・教育政策」への転換を！

# 最初の一步:

## 「研究全国三部会」的組織の設立

- ▶ 研究・教育に対する各立場の意見集約
- ▶ 理念・方針の明確化と事前に調査すべき項目の指摘

(※「全国三部会」はフランス史のEtatsgénéraux。異なる立場を代表する者同士が集い、公益に関することを議論する集会の意味で今日も用いられる。)



# 提言

# 組織のイメージ

いくつかの可能性

- ▶ 全米科学技術振興会 (AAAS) 的なNPO  
型振興組織 (民間主導型)
- ▶ 大学議会 (研究・教育機関主導型)
- ▶ 既存の組織 (日本学術会議など) の拡大、  
独立性・調査能力強化、各種団体との連  
携強化

(参考)18世紀の西洋世界において伝統的に認識されていた

# 研究の価値を構成する要素

- ▶ 短期的有用性  
予測可能 技術的・社会的応用 巨額投資と短期間での  
確実な利益 (例: 応用科学・技術)
- ▶ 長期的有用性  
予測不可能 永続的投資と不確実な利益 (例: ニュートン  
の万有引力)
- ▶ 「有用性」に還元しきれない「面白さ」  
学知のための学知 それに意味を認める人間集団に依存  
精神的な充足 (例: 歴史 宇宙論)